

# Cisco IOS Gatekeeper を使用する ATA 186 の設定とトラブルシューティング

## 内容

[概要](#)

[前提条件](#)

[要件](#)

[使用するコンポーネント](#)

[表記法](#)

[ネットワーク図](#)

[ゲートキーパーを使ったATA 186 の登録](#)

[セキュリティの追加](#)

[H.323 IDを使用してゲートキーパーでエンドポイントを認証する](#)

[E.164アドレスを使用したゲートキーパーでのエンドポイントの認証](#)

[H.323 IDとパスワードを使用してゲートキーパーでエンドポイントを認証する](#)

[E.164アドレスとパスワードを使用したゲートキーパーでのエンドポイントの認証](#)

[セパレータを使用してH.323 IDとパスワードでゲートキーパーでエンドポイントを認証する](#)

[確認](#)

[トラブルシュート](#)

[ゲートキーパーのトラブルシューティング](#)

[ATA 186のトラブルシューティング](#)

[ATA 186 が実行するコールのデバッグ例](#)

[関連情報](#)

## 概要

Cisco Analog Telephone Adaptor ( ATA ) 186 は、ハンドセットをイーサネットに接続するアダプタであり、通常のアナログ電話と IP ベースのテレフォニー ネットワークのインターフェイスとして機能します。ATA 186 には、従来のアナログ タッチ トーン電話機をサポートできる 2 個の音声ポートがあります。ATA 186 ではこれらのポートにデジタルを送出できないため、通常の Foreign Exchange Station ( FXS ) ポートと異なり、これらのポートは構内交換機 ( PBX ) と接続できません。この設定では、それぞれに異なる E.164 アドレスを使用して両方の音声ポートを使用できます。

## 前提条件

### 要件

このドキュメントでは、読者が『[Cisco ATA 186 基本設定](#)』ドキュメントの内容をよく理解していることを前提としています。

この設定では、H.323フィーチャセットを使用して、ATA 186がバージョン2.0以降である必要があります。

ATA 186、ゲートウェイ、およびゲートキーパーデバイス間にIP接続があることを確認します。さらに設定を行うには、Webサーバ方式を使用してATA 186にアクセスできることを確認します。

## 使用するコンポーネント

このドキュメントの情報は、次のソフトウェアとハードウェアのバージョンに基づいています。

- バージョン2.12のATA 186
- ゲートウェイとしてCisco IOS<sup>®</sup>ソフトウェアリリース12.1が稼働するCisco 3640
- Cisco IOSソフトウェアリリース12.2をゲートキーパーとして使用するCisco 2600

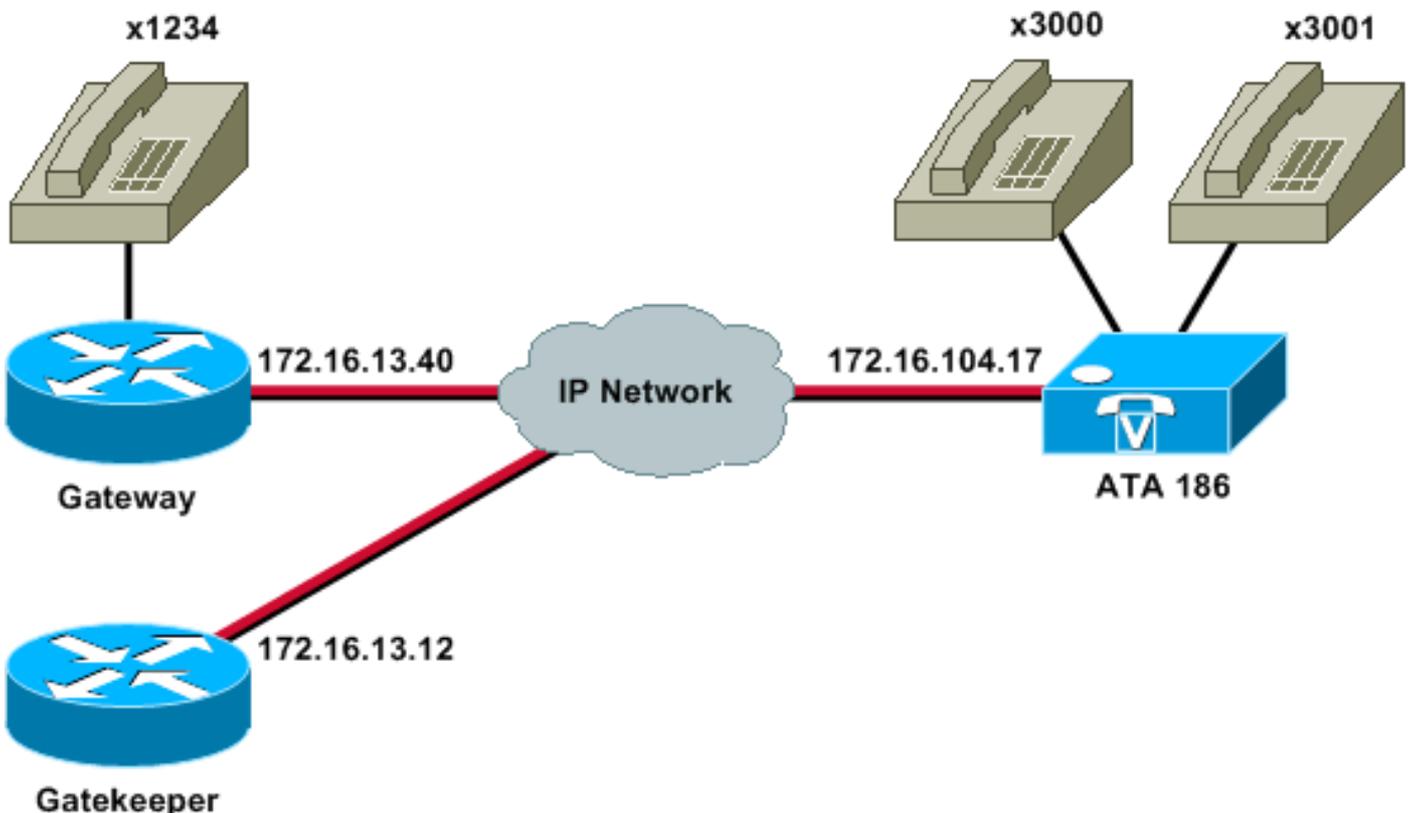
このマニュアルの情報は、特定のラボ環境に置かれたデバイスに基づいて作成されました。このドキュメントで使用するすべてのデバイスは、初期（デフォルト）設定の状態から起動しています。実稼働中のネットワークで作業をしている場合、実際にコマンドを使用する前に、その潜在的な影響について理解しておく必要があります。

## 表記法

ドキュメント表記の詳細は、「[シスコテクニカルティップスの表記法](#)」を参照してください。

## ネットワーク図

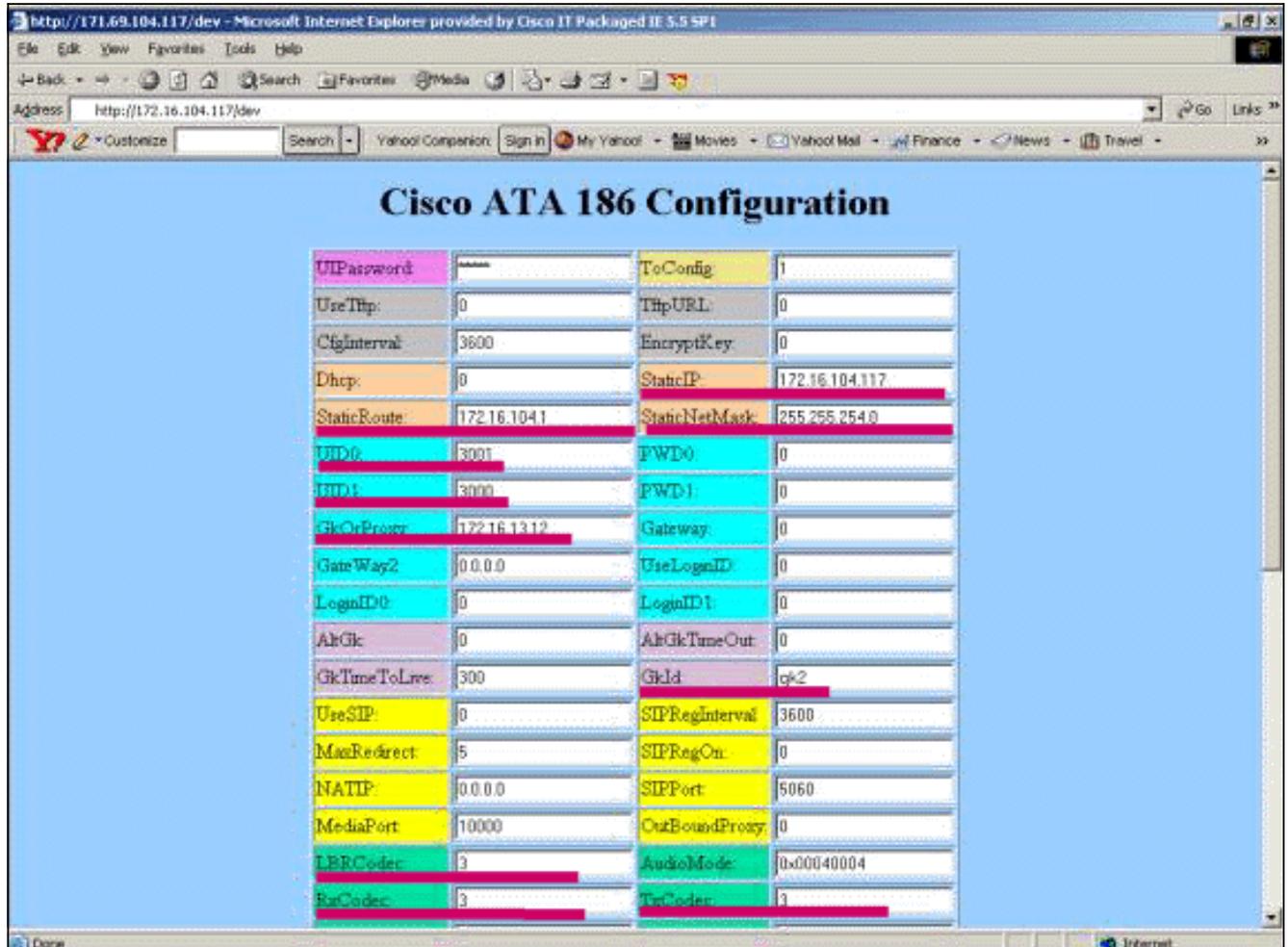
このドキュメントでは、次のネットワーク セットアップを使用します。



## ゲートキーパーを使ったATA 186 の登録

次の手順に従って、ATA 186をゲートキーパーに登録します。

1. Webブラウザの[Address or Location]フィールドに、URL `http:// ip_address_of_ata/dev`を入力してATA 186設定画面にアクセスします。ここで、`ip_address_of_ata`は、登録するATA 186のIPアドレスです。この例では、URL は `http://172.16.104.117/dev` です。Cisco ATA 186 の設定ウィンドウが表示されます。注：下線付きフィールドは、このシナリオに関連する設定パラメータです。



IP アドレッシングは、『[Cisco ATA 186 基本設定](#)』ドキュメントで説明されているように、スタティックにもダイナミックにもできます。 前の画面では、スタティックIPアドレスが使用されます。

2. [Cisco ATA 186設定(Cisco ATA 186 Configuration)]ウィンドウで、次のフィールドを設定します。UID0およびUID1：音声ポート0および1のE.164アドレスを設定します。ATA 186は、いずれかのポートがビジーの場合にハントできないため、両方の音声ポートに同じE.164アドレスを設定することはできません。両方の音声ポートに同じE.164アドレスが割り当てられている場合、コールは常に最初の音声ポートに送信されます。このポートがビジーだと、ビジー信号が発信者に送信されます。[RxCodec] と [TxCodec]：コーデック ID を設定します。G.723.1：コーデックID 0。G.711a：コーデックID 1。G.711u：コーデックID 2。G.729a：コーデックID 3。次に示す構成では、G.729r8コーデックがATA 186とゲートウェイで使用されています。[LBRCodec]：選択したコーデックに基づいて、0または3として設定します。LBR is 0:G.723.1コーデックは、いつでも両方のFXSポートで使用できます。各回線はノンカンファレンス状態の2つのG.723.1コールを維持できます。したがって、Cisco ATA 186では最大4つのG.723.1コールを維持できます。たとえば、コールウェイティングです。LBRは3:G.729aは、先着順で2つのFXSポートの1つに使用できます。Cisco IOSゲートウェイにデフォルトのG.729コーデックが設定されている場合、使用できるATA

186ポートは1つだけです。2番目のコールが失敗するのを防ぐために、ゲートウェイで音声コーデッククラスを設定し、G.711コーデックを使用して2番目のコールをネゴシエートします。詳細は、『コーデックについて』の「[コーデックネゴシエーション](#)」セクションを参照してください。[複雑度、ハードウェアサポート、MOS、およびネゴシエーションに関する](#) 文書。GKOrProxy : ゲートキーパーのIPアドレスを設定します。これが完了すると、ATA 186音声ポートからダイヤルされた内容がゲートキーパーに送信されます。

3. [Apply]ボタンをクリックし、ページをリロードします。ATA 186自体の再設定に10秒かかります。

次の例は、Cisco IOSゲートキーパーとゲートウェイに関連する設定です。

#### 2610 – ゲートキーパー

```
interface Ethernet0/0
 ip address 172.16.13.12 255.255.255.224
 half-duplex
 h323 interface
 h323 h323-id pro
 h323 gatekeeper ipaddr 172.16.13.12
 h323 t120 bypass
 !
dial-peer cor custom
 !
 !
 !
gatekeeper
 zone local gk2 cisco.com 172.16.13.12
no shutdown
 !
```

#### 3640 – ゲートウェイ

```
interface Ethernet0/0
 ip address 172.16.13.40 255.255.255.224
 half-duplex
 !
ip classless
ip route 0.0.0.0 0.0.0.0 172.16.13.33
ip http server
 !
 !
 !
voice-port 3/0/0
 !
voice-port 3/0/1
 !
dial-peer cor custom
 !
 !
 !
dial-peer voice 1 pots
 destination-pattern 34
 port 3/0/0
 !
dial-peer voice 2 pots
 destination-pattern 45
 port 3/0/1
 !
dial-peer voice 100 pots
```

```

destination-pattern 1234
port 3/0/0
!
dial-peer voice 3000 voip
destination-pattern 300.
session target ras
!--- Dial-peer to send the calls to ATA. !

```

## セキュリティの追加

ATAソフトウェアリリース2.12では、このセクションのオプションを使用してセキュリティを追加できます。

### H.323 IDを使用してゲートキーパーでエンドポイントを認証する

H.323 IDに登録するようにATA 186を設定するには、次の手順に従います。

1. [AutoMethod]フィールドを0に設定します (既定値は1)。このフィールドに設定する16進数値は0x0です。
2. [UseLoginID]フィールドを1に設定します。
3. LoginID0とLoginID1を、ATA 186のH.323 IDで設定します。ATA 186は、ポートごとに1つずつ、異なる2つのH.323端末として登録します。

次に、H.323 ID認証方式でATAを使用する場合のゲートキーパーの動作設定の例を示します。

UIPassword		ToConfig	1
UseTtp:	0	TtpURL:	0
CfgInterval	3600	EncryptKey	0
Dhcp:	0	StaticIP	172.16.104.117
StaticRoute:	172.16.104.1	StaticNetMask	255.255.254.0
UID0:	3001	PWD0:	0
UID1:	3000	PWD1:	0
GkOrProxy	172.16.1312	Gateway:	0
GateWay2	0.0.0.0	UseLoginID	1
LoginID0	atagw1	LoginID1	atagw2
AltGk:	0	AltGkTimeOut	0
GkTimeToLive	300	GkId	gk2
UseSIP:	0	SIPRegInterval	3600
MaxRedirect:	5	SIPRegOn	0
NATIP:	0.0.0.0	SIPPort	5060
MediaPort	10000	OutBoundProxy	0
LBRCCodec	3	AudioMode	0x00040004
ErCodec	3	TxCodec	3

## 2610 – ゲートキーパー

```
aaa authentication login default local
aaa authentication login cisco none
aaa authentication login h323 local
aaa session-id common
enable password ww
!
username atagw1
!--- Same as the LoginID0 and LoginID1 fields. username
atagw2 username 3640
!--- Same as the H.323 ID configured on the gateway. !
gatekeeper zone local gk2 cisco.com 172.16.13.12
security any
!--- Register after the H.323 ID or E.164 address is
authenticated. no shutdown !
```

## E.164アドレスを使用したゲートキーパーでのエンドポイントの認証

E.164アドレスに登録するようにATA 186を設定するには、次の手順に従います。

1. [AutoMethod]フィールドを0に設定します (既定値は1)。このフィールドに設定する16進数値は0x0です。
2. [UseLoginID]フィールドを0に設定します。ATAはUID0およびUID1フィールドを使用して、ゲートキーパーによって認証されます。

次に、E.164 ID認証方式でATAを使用する場合の、ゲートキーパーとゲートウェイの動作設定の例を示します。

## 2610 – ゲートキーパー

```
aaa authentication login default local
aaa authentication login cisco none
aaa authentication login h323 local
aaa session-id common
enable password ww
!
username 3001
!--- Same as the UID0. username 3000
!--- Same as the UID1. ! gatekeeper zone local gk2
cisco.com 172.16.13.12 security any
!--- Register after the H.323 ID or E.164 address is
authenticated. no shutdown !
```

## H.323 IDとパスワードを使用してゲートキーパーでエンドポイントを認証する

次の手順に従って、H.323 IDとパスワードで登録するようにATA 186を設定します。

1. [AutoMethod]フィールドを1に設定します (既定値は1)。このフィールドに設定する16進数値は0x1です。このフィールドは、ATAがパスワードを検索したことを示すために設定されます。
2. [UseLoginID]フィールドを1に設定します。
3. LoginID0とLoginID1を、ATA 186のH.323 IDで設定します。ATA 186は、ポートごとに1つずつ、異なる2つのH.323端末として登録します。
4. PWD0とPWD1に各ポートのパスワードを設定します。注：ATAはパスワードを使用してト

ークンを生成します。このトークンは、認証のためにゲートキーパーに送信されます。

5. ネットワークタイムプロトコル(NTP)サーバのIPアドレスでNTPIPを設定します。ゲートキーパーとATAには、同じNTPサーバに同期されたクロックが必要です。

注：タイムスタンプはトークン生成に使用されます。詳細については、『[Gateway to Gatekeeper \(H.235\)](#)』および『[Gatekeeper to Gatekeeper \(IZCT\) Security Troubleshooting Guide](#)』を参照してください。

次に、H.323 IDとパスワード認証方式を使用してATAを使用する場合の、ゲートキーパーとゲートウェイの動作設定の例を示します。

#### 2610 – ゲートキーパー

```
aaa authentication login default local
aaa authentication login cisco none
aaa authentication login h323 local
aaa session-id common
enable password ww
!
username atagw1 password cisco
!--- Same as the LoginID0 and PWD0 fields. username
atagw2 password cisco
!--- Same as the LoginID1 and PWD1 fields. ! gatekeeper
zone local gk2 cisco.com 172.16.13.12 security token
required-for registration
!--- Register after the H.323 ID or E.164 address and
token is authenticated. no shutdown !
```

注：ゲートキーパーセキュリティの詳細については、『[Gateway to Gatekeeper \(H.235\)](#)』および『[Gatekeeper to Gatekeeper \(IZCT\) Security Troubleshooting Guide](#)』を参照してください。

### E.164アドレスとパスワードを使用したゲートキーパーでのエンドポイントの認証

次の手順に従って、E.164 IDとパスワードで登録するようにATA 186を設定します。

1. [AutoMethod]フィールドを1に設定します (既定値は1)。このフィールドに設定する16進数値は0x0です。このフィールドは、ATAがパスワードを検索することを示すために設定されます。
2. [UseLoginID]フィールドを0に設定します。
3. ATA 186のE.164 IDでUID0とUID1を設定します。ATA 186は、ポートごとに1つずつ、異なる2つのH.323端末として登録します。
4. PWD0とPWD1に各ポートのパスワードを設定します。注：ATAはパスワードを使用してトークンを生成します。このトークンは、認証のためにゲートキーパーに送信されます。
5. NTPサーバのIPアドレスを使用してNTPIPを設定します。ゲートキーパーとATAには、同じNTPサーバに同期されたクロックが必要です。

注：タイムスタンプはトークン生成に使用されます。詳細については、『[Gateway to Gatekeeper \(H.235\)](#)』および『[Gatekeeper to Gatekeeper \(IZCT\) Security Troubleshooting Guide](#)』を参照してください。

次に、E.164 IDとパスワード認証方式を使用してATAを使用する場合の、ゲートキーパーとゲートウェイの動作設定の例を示します。

#### 2610 – ゲートキーパー

```
aaa authentication login default local
aaa authentication login cisco none
aaa authentication login h323 local
aaa session-id common
enable password ww
!
username 3001 password cisco
!--- Same as the UID0 and PWD0 fields. username 3000
password cisco

!--- Same as the UID1 and PWD1 fields. ! gatekeeper zone
local gk2 cisco.com 172.16.13.12 security token
required-for registration
!--- Register after the H.323 ID or E.164 address and
token is authenticated. no shutdown !
```

注：ゲートキーパーセキュリティの詳細については、『[Gateway to Gatekeeper \(H.235\)](#)』および『[Gatekeeper to Gatekeeper \(IZCT\) Security Troubleshooting Guide](#)』を参照してください。

## セパレータを使用してH.323 IDとパスワードでゲートキーパーでエンドポイントを認証する

次の手順に従って、H.323 IDとパスワードで登録するようにATA 186を設定します。

1. [AutoMethod]フィールドを1に設定します（既定値は1）。このフィールドに設定されている16進数値は0x1です。このフィールドは、ATAがパスワードを検索したことを示すために設定されます。
2. [UseLoginID]フィールドを1に設定します。
3. LoginID0とLoginID1にH.323 IDを設定し、続いてATA 186のセパレータとパスワードを設定します。たとえば、LoginID0は`atagw1=cisco`です。ATA 186は、ポートごとに1つずつ、異なる2つのH.323端末として登録します。注：ATAはパスワードを使用してトークンを生成します。このトークンは、認証のためにゲートキーパーに送信されます。
4. NTPサーバのIPアドレスを使用してNTPIPを設定します。ゲートキーパーとATAには、同じNTPサーバに同期されたクロックが必要です。

注：タイムスタンプはトークン生成に使用されます。詳細については、『[Gateway to Gatekeeper \(H.235\)](#)』および『[Gatekeeper to Gatekeeper \(IZCT\) Security Troubleshooting Guide](#)』を参照してください。

次に、セパレータを使用してH.323 IDとパスワード認証方法を使用する場合の、ゲートキーパーとゲートウェイの動作設定の例を示します。

### 2610 – ゲートキーパー

```
aaa authentication login default local
aaa authentication login cisco none
aaa authentication login h323 local
aaa session-id common
enable password ww
!
username atagw1 password cisco
!--- Same as the LoginID0 and PWD0 fields. username
atagw2 password cisco
!--- Same as the LoginID1 and PWD1 fields. ! gatekeeper
zone local gk2 cisco.com 172.16.13.12 security h323-id
```

```
security password separator =
!--- Register after the H.323 ID or E.164 address and
token is authenticated. no shutdown !
```

注：ゲートキーパーセキュリティの詳細については、『[Gateway to Gatekeeper \(H.235\)](#)』および『[Gatekeeper to Gatekeeper \(IZCT\) Security Troubleshooting Guide](#)』を参照してください。

## 確認

このセクションの例は、ゲートキーパーエンドポイントの登録を示しています。

設定を確認するには、`show gatekeeper endpoint`コマンドを発行します。

```
GATEKEEPER ENDPOINT
REGISTRATION

CallSignalAddr  Port  RASSignalAddr  Port  Zone Name  Type      Flags
-----
172.16.13.40    1720  172.16.13.40   50923  gk2        VOIP-GW   E164-ID: 1234
                                           H323-ID: 3640
172.16.13.43    1720  172.16.13.43   58400  gk2        VOIP-GW   H323-ID: 3660-2
172.16.104.117  1720  172.69.85.90   1719   gk2        TERM      E164-ID: 3000
172.16.104.117  1721  172.69.85.90   1739   gk2        TERM      E164-ID: 3001
Total number of active registrations=3
```

注：ATA 186は、H.323ゲートウェイではなくH.323ターミナ(TERM)として登録します。これは、ATA 186宛てのコールだけが送信されるように意図的に行われます。

注：ATAゲートウェイフィールドにアドレスを設定することはできません。ゲートキーパーおよびゲートウェイと連携するようにATA 186を設定することはできません。

## トラブルシューティング

このセクションでは、設定のトラブルシューティングを行うための情報について説明します。

ATA 186は、ゲートキーパーに正常に登録されていない場合は、ダイヤルトーンを提供しません。ATA 186がゲートキーパーに登録されていない場合は、次の項目を確認します。

- ATA 186とゲートキーパー間にIP接続が存在します。
- ATA 186 UID0およびUID1フィールドは正しく設定されています。UIDフィールドが0に設定されている場合、ATA 186はゲートキーパーへの登録を試行しません。ATA 186が登録プロセスを開始するには、少なくともUID0フィールドが0以外の値である必要があります。両方のATA 186ポート (UID0およびUID1) にゼロ以外のE.164アドレスが設定されている場合、ATA 186は両方のポートへの登録を試みます。いずれかのポートが登録できない場合でも、ATA 186はダイヤルトーンを提供しません。
- ゲートキーパーが正しく設定されている。ゲートキーパーにローカルゾーンプレフィクスが設定されている場合は、ATA 186のE.164アドレスを含める必要があります。ゲートキーパーでセキュリティが設定されている場合は、それに応じてATA 186を設定する必要があります。

また、[UseSIP]フィールドが0に設定されていることを確認します。これは、H.323モードでATA 186を設定するために必要です。[UseSIP]フィールドが1に設定されている場合、ATA 186は登録要求をゲートキーパーに送信しません。

## ゲートキーパーのトラブルシューティング

セキュリティが設定されたら、[debug aaa authentication](#)コマンドを発行します。

セキュリティが設定されていない場合は、[debug ras](#)コマンドを発行します。

注：ATA 186は2つの音声ポートに個別に登録します。したがって、ATA 186は、次のデバッグに示すように、異なるH.323端末の2倍の認証を受けます。

```
4w4d: AAA/AUTHEN/CONT (3800768902): continue_login (user='atagw1')
4w4d: AAA/AUTHEN (3800768902): status = GETPASS
4w4d: AAA/AUTHEN/CONT (3800768902): Method=LOCAL
4w4d: AAA/AUTHEN (3800768902): status = PASS
4w4d: AAA: parse name=<no string> idb type=-1 tty=-1
4w4d: AAA/MEMORY: create_user (0x83149EFC) user='atagw2'ruser='NULL' port='NULL'
rem_addr='NULL' authen_type=ASCII service=LOGIN priv=0 initial_task_id='0'
4w4d: AAA/AUTHEN/START (294225678): port='' list='h323' action=LOGIN service=LOGIN
4w4d: AAA/AUTHEN/START (294225678): found list h323
4w4d: AAA/AUTHEN/START (294225678): Method=LOCAL
4w4d: AAA/AUTHEN (294225678): status = GETPASS
4w4d: AAA/H323: Password:
4w4d: AAA/AUTHEN/CONT (294225678): continue_login (user='atagw2')
4w4d: AAA/AUTHEN (294225678): status = GETPASS
4w4d: AAA/AUTHEN/CONT (294225678): Method=LOCAL
4w4d: AAA/AUTHEN (294225678): status = PASS
4w4d: AAA: parse name=<no string> idb type=-1 tty=-1
4w4d: AAA/MEMORY: create_user (0x831910C0) user='3660' ruser='NULL' port='NULL'
rem_addr='NULL' authen_type=ASCII service=LOGIN priv=0 initial_task_id='0'
```

トラブルシューティングの例については、「[ゲートキーパー登録の問題のトラブルシューティング](#)」を参照してください。

## ATA 186のトラブルシューティング

サードパーティのゲートキーパーとゲートウェイを使用している場合、ATA 186のトラブルシューティングツールは非常に役立ちます。ATA 186トラブルシューティングツールを有効にするには、次の手順を実行します。

1. [ATA Nprintf]フィールドで、ATA 186と同じサブネット上にあるPCのIPアドレスを設定します。
2. アドレスの後に指定されたポートは 9001 である必要があります。
3. PCのDOSプロンプトで、**preserv.exe**プログラムを発行します。

preserv.exeプログラムは、[Cisco Software Center](#)(登録ユーザ専用)からダウンロードできます。

preserv.exeプログラムは、最新のATA 186ソフトウェアリリースZIPファイルに含まれています。

## ATA 186 が実行するコールのデバッグ例

```
D:\Documents and Settings\sshafiqu\My Documents\voice\ata>prserv.exe
```

```
GK<-1: KPA-RRQ:300 sec
```

```
GK->1: RCF:TTL 300
```

```
!--- ATA was reset after the gatekeeper configuration was added. WStop:0 Wed Feb 06 19:06:54
```

2002 Hello from 171.69.85.90(0) Build 1109a: v2.12 ata186 Successfully Registered with the Gatekeeper GK zone<gk2>172.16.13.12: 3000 GK zone:gk2 0x13e138 delayed RRQ: 48 ticks: 300 GK zone<gk2>172.16.13.12: 3001 GK zone:gk2 0x141e58 delayed RRQ: 56 ticks: 300 BMK : gk2 GK<-1: KPA-RRQ:300 sec BMK : gk2 GK<-0: KPA-RRQ:300 sec GK->1: RCF:TTL 300 GK->0: RCF:TTL 300 SCC->(0 0) <cmd 0> 3000 active @0xab45555a (GK @0xac100d0c) *!--- Call made from voice port 0.* [0]DTMF 1 [0]DTMF 2 [0]DTMF 3 [0]DTMF 4 [0]DTMF # Calling 1234 SCC->(0 0) <cmd 16> CLIP\ \SCC->(0 0) <cmd 2> \<0 0> dial<1234> **GK<-0: ARQ: 0**

**GK->0: ACF:0:direct call**

IRR in 240 sec

CallRasCallBack: 1 33e15eb 33e206b 33e39b0

Connect to <0xac100d28 1720>>..

>>>>>> TX CALLER ID : 0x1 0x80 6

Q931<-0:Setup:CRV 25006

Q931->0:Proceeding

Connect H245...

H245 TCP conn ac100d28 11006

CESE/MSDSE start:<0 0 0 0>

capSize = 3

H245->0:Cese

RemoteInputCap <15 5>

RemoteInputCap <15 4>

RemoteInputCap <15 1>

RemoteInputCap <4 11>

MODE FRAME : 11 2

RemoteAudioCap <4 10>

**Capability set accepted**

H245->0:MSD: <rn tt> = <0x269c 60>

H245->0:CeseAck

H245->0:MsdAck

h323.c 1837: cstate : 3

->H245<0> OLC

H245<-0:LcseOpen

set TX audio to G729/G729A 2 fpp

SetG723Mode: 2 0

H245->0:LcseOpen

H245->0:OLC mode 10

remote OpenLogicalReq G711/G729(10) : 2 fpp

OpenRtpRxPort(0,0x0,4000):14

RTP Rx Init: 0, 0

RTP->0:<0xab45555a 4000>

H245->0:LcseOpenAck

RTP<-0:<0xac100d28 17304>

[0]Enable encoder 18

RTP TX[0]:SSRC\_ID = 4af964c0

RTP Tx Init: 0, 0

[0]DPKT 1st: 861812319 861812079, pt 18

Enable LEC adapt [0]=1

H323Dispatcher : 3 3

[0]Received pi=8 in q931

Q931->0:Progress

Q931->0:Connect

SCC:ev=12[0:0] 3 0

Q931->0:ReleaseComplete: reason 16, tone = 13

H245<-0:EndSessionCmd 1

0: Close RTPRX

write TCP err : 13 -33

[0:0]Rel LBRC Res

**Q931<-\*:ReleaseComplete**

*!--- ATA side hangs up the call.* write TCP err : 12 -33 **GK<-0: DRQ:0**

*!--- Disconnect request sent by ATA.* SCC:ev=13[0:0] 4 0 [0:0]SCC: Disconnected **GK->0: DCF**

*!--- Disconnect confirm received.* SCC->(0 0) <cmd 1> [0]MPT mode 0

**ダイヤルトーンのないATAのデバッグ例**

両方の音声ポートに一意のE.164アドレスが必要です。そうしないと、ATAはゲートキーパーからRejectを受信します。この間、ATA 186が1つの音声ポートにH.323端末として登録されていますが、ダイヤルトーンは発生しません。

```
K<-0: GRQ
BMK : gk2
GK->0: GCF:GK@0xac100d0c-1719
BMK : gk2
Secured RRQ
GK<-0: RRQ
GK->0:RRJ: reason 4
```

## **関連情報**

- [Cisco ATA 186 基本設定](#)
- [Cisco IOS ゲートウェイを使用するATA 186の設定とトラブルシューティング](#)
- [Cisco高性能ゲートキーパー – ゲートキーパーの設定](#)
- [Voice over IP の設定](#)
- [音声に関する技術サポート](#)
- [音声とユニファイド コミュニケーションに関する製品サポート](#)
- [Cisco IP Telephony のトラブルシューティング](#)
- [テクニカル サポートとドキュメント – Cisco Systems](#)